

新聞や雑誌の切り抜きでつくる五七五「コラージュ川柳」が話題を呼んでいる。本来バラバラだった言葉が組み合わさって生まれるシュールさと、ドラマやアニメで見る犯罪予告のような見た目が面白い。ワークショップやSNS（交流サイト）への投稿を通して広がりを見せている。拡大するコラージュ川柳の魅力はどこにあるのか。記者も体験して探ってみた。

コラージュ川柳

「2連泊ー！ふとんに潜む スワイ蟹」

京都造形芸術大学の1年生で「コラージュ川柳倶楽部」メンバーの木村さくらさん（19）の作品だ。「ズワイ蟹が布団に潜んでるなんて普通は有り得ないシチュエーションですが、想像すると面白い。日常と非日常の狭間のような妙な感じが気に入っています」（木村さん）

コラージュ川柳の作り方は簡単だ。まず、新聞や雑誌から目に留まった5文字、7文字を切り抜く。それらを自由に組み合わせ、五七五をつくり、台紙に貼り付ければ完成だ。字余りや字足らずはOKだが、2文字と3文字を組み合わせて5文字にするなどの合体技

優秀作、SNSで拡散

組み合わせると、言葉と見た目にギャップが出る。

平田想さん（18）によると、「まずはとにかく切り抜いて手数を増やすことが重要」だそう。同倶楽部では長机2つにいっぱい広げられるほどの切り抜きストックがあり、メンバー内で共有しているのだとか。

コラージュ川柳を考案、同倶楽部を設立した

ピンとくる

同大学非常勤講師の柴田英昭さんは、面白い川柳を作るには「読んでみて頭の中にイメージやストーリーが浮かぶかどうか」が大きなポイント。インパクトの強いキーワードに引っ張られすぎないのもコツ」と話す。

「食べ放題 野菜たっぷり 毛がにフェア」「え？カニは？」「いつも食べ物の作品ばかり！」。作った湯朝直仁さん（21）も「いつも面白い食べ物や飲み物のチャラシばかりが目がいってしま

の取材時、記者（23）も作ってみた。面白くなりそうな言葉一つ一つは目に飛び込んでくるのだが、それを3つ組み合わせるとなかなかピンとこない。1つ言葉を入れ替えるだけでそれぞれの言葉の持つ意味が全く変わってしまう。何度も切り抜きを並べ替えながら、言葉どうしが面白さを最大限に引き出しあう組み合わせを探した。苦心すること1時間弱、ようやく3句できた。

「チャンスです。最後のトマト 10兆円」

柴田さんからは「何百年後に本当にそういう時代がくるかもしれない。いろいろ想像が膨らむ一句です」との講評。灼熱（しゃくねつ）の砂漠かハイパーインフレか。いずれにせよ好ましい未来ではなさそうです。

新聞の 見出し切り抜き

ピンとくる

誰でも気軽に参加できるアートを考えていて思いついたというコラージュ川柳。柴田さんは授業や創作活動の合間にワークショップも開催する。同倶楽部の作品をツイッターの公式アカウントで投稿し始めたところ、ハッシュタグ「#コラージュ川柳」を付けて自作の川柳を投稿する動きが一般の人にも広がった。アカウントは5000のフォロワーを集め、同倶楽部がツイッター上で実施した「コラージュ川柳番付」でも100件を超える応募があった。

最近小学生が自由研究として取り組む、他大が授業として取り入れるといった例も出てきているという。

誰でも気軽に楽しめる。普通の川柳とは少し違った面白さのあるコラージュ川柳。ひょっとしたら今後、サラリーマン川柳、シルバー川柳と並ぶようなメガ川柳イベントに発展していくかもしれない。（伊神賢人）

コラージュ川柳倶楽部直伝「面白く作るコツ」

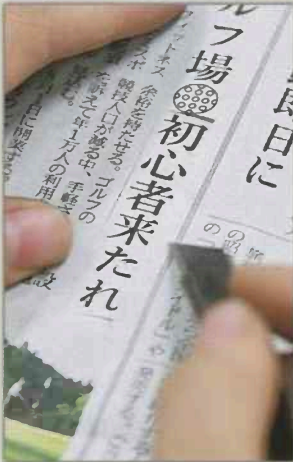
一、媒体を選ぶ

幅広く！印刷物なら何でもOK！



二、切る

手間勝負！一句の裏に千の切り抜き



三、考える

探り出せ！3語のシュールなストーリー



四、貼る

ルールなし！型にハマらず見た目を追求

